

今週のみこば

「鷲の翼に乗せて」 (出エジプト記 19 章 1～7 節) 仲森文穩

『あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た。

今、もしあなたがたが確かにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中にあつて、わたしの宝となる。全世界とはわたしのものであるから。』(4～5)

今日のメッセージ要旨

◎モーセはエジプトで奴隷として苦しむイスラエルの人々を救い出し、シナイの荒野まで導いてきました。彼一人の力でそれを成し得たわけではなく、神様の助けと導きがあつてのことです。彼らは神様の「鷲のような力強い翼に乗せてもらつて」救い出されたのです。彼らは自分たちをただお任せして、大きな救いの翼に乗っていればよかったのです。

一体なぜ、神さまはイスラエルの人々に目をとめられたのでしょうか。申命記 7 章 6 節以下では、それはあなたがたの数が多かったからではない。むしろ数が少なかった、貧弱だったから、と言われていています。つまり、選ばれるような資格は何一つなかったけれど、放っておけなかった。ただ神様が愛のゆえに、彼らをご自分の宝の民としてお招きになった、ということなのです。友人を教会に誘うと、もう少しましな人間になったら行くよと言います。思い違いです。弱いままでいい、欠点だらけでいい、ありのままの姿で私たちはイエス・キリストによって招かれるのです。

◎幼い子どもたちのくったくのない笑顔を見ると、思わず可愛くて抱き上げたくくなります。幼い子供たちは非力で足りない所だらけです。あの笑顔は弱さなのです。でも、それを見て誰もがいとおいと思ってしまうのです。

つまり、弱さとか足りなさこそが、暖かいものを一杯引き出すのです。でも、人は成長して大人になればなるほど、自分で何とかしようともがくようになる。もし自分で頑張つて神様に頼らなかつたら、神様の出番がなくなってしまうのではないのでしょうか。そして、せつかくの深い憐れみを神様から引き出せないのではないのでしょうか。私たちにとって大事なものは、弱さの中で助けを求め、神さまの憐れみを一杯引き出して生きていくことではないのでしょうか。

◎教会でも同じです。一人で何もかもやってしまえば、交わりは育ちません。助けてもらい、助けてあげて、支えてもらい、支えてあげて、祈つてあげて、祈つてもらつて、お互いに「有難う」と言い合える関係が起こる、それが望ましい姿ではないのでしょうか。みんなで赦し合つて、作り上げていって、そういうことを重ねていって、私たちの交わりは豊かに育っていくのだと思います。

「強く、雄々しくあれ」という御言葉と出会うと、頑張ろうと思いますが、他方「弱いままでいいよ。私が鷲のような強い力であなたを運んであげる」という御言葉に出会うとホッとします。互いに弱さを認めつつ、鷲の翼に乗せていただく恵みを信じて歩んでいこうではありませんか。